

【 87 】

氏名	杉 本 太 郎
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 2244号
学位授与の日付	平成13年3月31日
学位授与の要件	医学研究科生理系神経情報学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	Plasma Orexin Concentrations in Patients on Hemodialysis (血液透析患者における血漿オレキシン濃度の検討)
論文審査委員	教授 辻 孝夫 教授 公文 裕巳 教授 阿部 康二

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

(目的) オレキシンAおよびBは、摂食行動の制御に関連する神経ペプチドである。我々は、摂食行動を制御するオレキシンの血漿濃度が血液透析 (HD) 患者の栄養状態を反映し、何らかの意義を与えているのではないかと考え、血漿オレキシン濃度がHD患者の栄養状態にいかなる関連性を有しているか検討した。

(方法) 67例のHD患者 (HD群) を対象とし、10例のIgA腎症患者、11例の腎症のない糖尿病患者、10例の健常者を対照として血漿オレキシン濃度を測定し、栄養学的指標と比較検討した。

(結果) 血漿オレキシンA濃度は、HD群はその他の群に比較し有意に高値であった。HD群においては、血漿オレキシンA濃度は、血清アルブミン値、および%CGRと有意な正相関を示した。重回帰分析による検討では、血漿オレキシンA濃度では %CGRのみが説明変数であった。

(結論) オレキシンAは腎臓でクリアランスを受けていることが推察された。また、血漿オレキシンA濃度はクレアチニン産生速度に有意な関連性を有しておりHD患者の栄養状態を反映した指標になり得ることが示唆された。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、摂食行動の制御に関連する神経ペプチドであるオレキシン A および B が、血液透析 (HD) 患者の栄養状態を反映しているか否かを研究したものである。67 例の HD 患者 (HD 群) を対象とし、10 例の IgA 腎症患者、11 例の腎症のない糖尿病患者、10 例の健常者を対照として血漿オレキシン濃度を測定し、栄養学的指標と比較検討した結果、血漿オレキシン A 濃度は、HD 群はその他の群に比較し有意に高値であったこと、さらに血漿オレキシン A 濃度はクレアチニン産生速度に有意な関連性をもっていることなど興味ある知見を得ている。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。